

槍ヶ岳山行報告

【山行日】2019年 7月 27～29日(土～月)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 33,200円

【メンバー】CL: 鈴木SL松館 岩淵、鶴見、藤原、
27日 晴れ後雨 岩舟支所を出発し、新穂高温
泉から鏡平小屋経由で双六小屋へ

岩舟支所P3:00＝岩見平 P6:10/6:30＝新穂高ゲ
ート 7:10/7:20～わさび平小屋 8:20～シシウドヶ原
11:30/12:00～鏡平小屋 13:10/13:30～弓折分岐
14:20/14:30～双六小屋 15:15

今回も台風5号の影響で決行するか迷ったが、前
日の予報が曇り時々雨に変わったので決行することにした。

岩舟支所を3時に出発し北関東道から上信越道、長野道と進み、松本ICで降り石見平の駐車場に到着。駐車場に車を止め、道路の反対側にある「グレンパークさわんど」でトイレを済ませ、出発の準備をする。丁度タクシーが1台止まっており「5人乗れますか？」と聞くと、「大丈夫です」との返事でザックを積んで



タクシーに乗り込む。天気は晴れていて「台風は東に逸れたのかな？」と話しながら新穂高温泉に着く。一番奥のゲート手前にあるホテルニューホタカ前でタクシーを降り、ストレッチを済ませて出発する。

ゲートをくぐり砂利道の林道を歩き、左手に穴毛谷から笠が岳を眺めながら左俣谷左岸沿いに進む。

本当に良い天気で「今回は雨に遭わないで登れるかも」と期待しながらルンルン気分で歩いて行く。

橋を渡って右岸に出ると左手に水場があり、まもなく笠新道を左に分けそのまま直進する。しばらく歩くと樹林の中にワサビ平小屋が現れ、小屋の前のベンチで休憩する。トイレを済ませ沢水で冷やされたリンゴを買い、5人で分けて食べたがとても美味しかった。ここからさらに林道歩きが続き、橋の手前で左に折れて小池新道に入り鏡平に向かう。しばらく進むと左手の沢から雪渓が残り、雪渓の末端をトラバースして登山道に戻る。すぐに河原を外れて灌木帯の登りになり、陽射しを受けて結構蒸し暑い。

秩父沢を丸木橋で渡り、すぐに秩父小沢を渡るがここは涼しく多くの登山者が休憩していた。

この先しだいに傾斜を増し、灌木帯を抜けるとイタドリ原からシシウドヶ原に出てランチタイムとする。霧雨が降り出したので、お湯は沸かさずおにぎりやパンを素早く食べ鏡平に向かう。

鏡平まではおよそ1.5Km。

ダケカンバの樹林を巻いて、鏡沢沿いに登ると大小の池が点在する鏡平に出る。晴れていれば、池面には飛騨側の険しい槍・穂高連峰が映し出されるが、あいにくの霧雨で見ることは出来なかった。



池畔に建つ鏡平山荘は多くの登山者が休んでおり、我々も山荘前にザックを置いて大休止する。山荘



名物のかき氷を注文し、山荘の中に腰かけて乾いた喉を潤した。トイレを済ませたらレインウエアーの上下を着込み、これから双六小屋までの登りに備える。完璧に雨対策を施し、小屋前から小橋を渡って池を横切り、弓折岳稜線に向かって登って行く。雨は止んだがガスが掛かり、何も見えない急登をひたすら登って行く。途中大きく右に回り込みながら登ると、平らに開けた弓折分岐に出る。小休止し菓子や水分を補給したら、双六小屋に向けて出発する。分岐を右に進み、稜線の登下降を繰り返すと大きな雪田が現れる。雪田を抜けるとお花畑になり、雪田花見平と呼ばれる

所でシナノキンバイやミヤマキンポウゲ、ハクサンイチゲ等が咲き競っている。緩やかに稜線歩きが続く、しばらく進むとベンチがあるくろゆりベンチに着く。お花畑の中にクロユリの花が沢山咲いており、「かわいい～」と皆さん気に入った様子。我輩が知らない「黒百合の歌」など歌いながら、ご機嫌で双六小屋に向かう。右手に崩落地を見て稜線を登下降し、2622mピークを過ぎたら左手に折れ、ハイマツ帯を巻きながら双六小屋へと下って行く。前方に双六小屋が見え、「もう少し頑張れ！」と思ったら雨が降り出した。雨との競争で歩いたが、だんだん強くなり本降りに。10分くらい降られたが、何とか双六小屋に着き受付を済ませる。

今日は混雑していて1枚の布団に2人になりますと、大部屋に案内され皆がっかりする。どうやらこの雨でテント泊の連中が、急遽小屋泊りに変更したかららしい。着替えてから濡れたものを乾燥室に干し、落ち着いたら談話室で宴会が始まる。飲みながら「あんな狭い所で寝られないね」「3ヶ月前に予約したのに今日変更してきた人と同じじゃ納得できないよね」と言うことでFさんが交渉し、「7時まで待って30名のツアーが来なかったら考えます」との事。夕食後「部屋を用意します」と言われ、無事一人1枚の布団に寝られることになり、めでたし、めでたし！！



28日 曇り時々雨 双六小屋から縦沢岳・西鎌尾根を登り、槍ヶ岳山荘へ

双六小屋 6:00～縦沢岳 6:40～左俣乗越 8:05～千丈乗越 9:20～槍ヶ岳山荘 10:30

朝3時に起床し4時出発の予定だったが、天気が良くない予報なので朝食を食べて6時出発に変更した。



朝食は並んだ順で4時30分からだが、3時30分から食堂前に列が出来ていた。I 淵さんが急いで並んでくれ、その後ろに並んだら文句を言われ全員が列の後ろに並ぶ。無事に1回目の朝食を食べられ、出発まで余裕があるのでゆっくり準備が出来た。小屋の前でストレッチを済ませ、記念写真を撮ってもらい6時丁度に出発する。双六小屋をあとに、縦沢岳に向かってジグザグに登る。ガスが掛かっているが雨は降ってなく、快調に登り縦沢岳山頂に着く。ピークを過ぎると西鎌尾根越に槍ヶ岳が迫力満点と書いてあるが、あいにくガスが掛かり槍ヶ岳は見えなかった。それでも硫黄岳やお花畑が良く見え、「ウワ～凄い、やっぱりこっちから登って良かったよ！」と嬉しそう。

前縦沢岳からコルに下り、次のピークは左俣谷側を巻く。このあたりから高山植物が多く咲き、ミヤマキンポウゲやヨツバシオガマ、ハクサンチドリなどの花が彩りを添えている。湯俣川側に出ると赤茶けた



硫黄尾根が見え、少し登ると硫黄乗越に着く。ガスが晴れて赤茶けた硫黄尾根がくっきり見え、草木が1本もない山容に圧倒される。小休止して景色を楽しみ、硫黄岳をバックに記念写真を撮る。群馬県から来たパーティと一緒に、「朝食を食べてから出たのですか？」と言葉を掛けられる。この後このパーティとは抜きつ抜かれつしながら、槍ヶ岳山荘を目指し登ることになる。硫黄乗越付近は遅くまで雪渓が残り、雪が消えるとハクサンイチゲやシナノキンバイ、コバイケイソウ、アオノツガザクラ等の花々が次々と咲き競う。赤岳や硫黄岳の殺伐とした山容を背景に絵になる

場所である。二重山稜の尾根から小ピークを越えると左俣岳、ジグザグに急降下すると砂礫の斜面にポツポツとイワツメクサやタカネシオガマが目を楽しませてくれる。

ところがこのあたりから小雨が降り出し、レインウェアの上衣を着る。ハイマツ帯の道を緩やかに進み、千丈沢側に出ると風が強くなってきた。さらにこの先はヤせた稜線の小ピークを登下降し、途中には数か所のクサリ場がある。やがて飛騨側の危うい岩稜に出ると、20m位のクサリ場が連続する。

足元が不安定なので慎重に通過し、クサリ場を抜けて千丈沢側に出ると300mほどで千丈沢乗越に出る。千丈沢乗越は左右に登山道を分け、右手に下ると飛騨沢から右俣谷沿いに新穂高へ下る。ここまでくれば槍ノ肩までは1.2Kmと近いが、ここからは急登になり一番つらい所だ。槍の穂先や小槍が望めれば元気が出るが、何も見えない急坂をただひたすら登って行く。稜線沿いに岩稜を登ると、



登山道はしだいにジグザグに登るようになり一步一步確実に高度を稼いで行く。しかし砂礫と岩礫混じりの登山道は歩きにくく、疲れも手伝って中々きつい登りだ。あえぎながら一步一步登ると平らになり、標識が立つ槍ノ肩に飛び出た。風が強いので槍ヶ岳山荘まで行き、風を避けてザックを置き休憩する。トイレを済ませもう一度槍ノ肩まで行き、槍ヶ岳山頂にアタックできるか確認するが、強風で危険なので槍の穂先への登頂は断念する。皆さんに槍ヶ岳山頂は諦めて槍沢ロッジに下るか、槍ヶ岳山荘に宿泊し明日の朝槍ヶ岳山頂にアタックするか聞くと、全員が「槍ヶ岳山荘に泊って明日の朝登りたい」と言うので槍ヶ岳山荘に泊ることにする。宿泊できるか確認し、ゆっくり寝たいので個室をとることが出来た。槍沢ロッジは系列の施設なので、槍ヶ岳山荘から変更の連絡を入れてくれた。部屋で着替えた濡れたウェアを乾燥室に干し、自炊室で昼食をいただく。テーブルでお湯を沸かし、カップ麺や味噌汁とパンやおにぎりをいただく。昼食後3時過ぎまで部屋で昼寝をし、3時過ぎから談話室で宴会が始まる。ビールやワインを飲みながら2日間のお話をし、明日の槍の穂先への登りに期待を寄せる。5時30分から夕食になり、夕食を食べたら明日の早立ちに備え、早めに就寝した。

29日 曇り時々雨 早朝槍ヶ岳山頂に登り、槍ヶ岳山荘から槍沢を下り上高地に下山し帰路につく。

槍ヶ岳山荘 4:05～槍ヶ岳 4:30/4:55～槍ヶ岳山荘 5:15/6:30～槍沢ロッジ 9:15/9:30～横尾 10:30/11:05～徳沢 11:50/12:05～明神 12:45/12:55～上高地 13:40/14:10＝石見平 P14:45/15:10＝「しもまき」15:20/16:20＝岩舟支所 P19:15

3時に起床し外に出るとガスが掛かっているが、風は無く何とか槍の山頂へ登れそうである。

4時30分に出発予定だったが、他の登山者の動きが早いので4時出発に変更する。準備を整えたら外



に出て、ストレッチを行ってから出発する。先行者は2組見えたが後ろから「待って」「ゆっくり登って」と声が掛かり、途中から見えなくなってしまう。ヘッドランプの灯りを頼りに、登りの矢印を探しながら登って行く。クサリやハシゴが連続し結構手強い登りに、皆さん苦戦しているようだ。途中待ちながら登って行き、最後の長いハシゴを登ると槍ヶ岳山頂に着き皆さんと握手して喜びを分かち合う。山頂で日の出まで待ち、明るくなったら山頂の祠の前で記念写真を撮る。続々と登山者が登って来て、写真を撮る順番待ちの列が出来た。山頂の上が黄色く陽が差す兆しが見えたが、すぐ

にガスってしまい眺望は得られなかった。待っても天気良くなる気配が無いので、下山を開始する。下山用のハシゴを降りて、下山用の矢印に従って下り、クサリが付いているが結構難しい。難しいクサリ場は、後ろの人に足の置き場を指図しながら慎重に下る。無事に槍の肩まで下りて来て、全員でハイタッチして登頂の喜びを分かち合った。山荘に戻ったら食堂に行き朝食をいただいたが、念願の槍ヶ岳に登頂していただくご飯は格別に美味しかったようだ。朝食が済んだら出発の準備し、トイレを済ませたら外に出て出発する。

下山は槍ヶ岳山荘のテラスから、槍沢に向かって下って行く。岩層の急斜面をジグザグに急降下し、殺生ヒュッテへの道を分け、グングン下る。空は明るくなり槍沢の雄大な景色を見ながら快適に下り、右手のお花畑が素晴らしい。お花畑を楽しみつつ下れば坊主の岩小舎に着き、記念写真を撮ってから下る。登山者が次々に登って来るので、学生の団体はすれ違いにかなり待たされた。この先で左手に回り込み、台地を下る所で二手に分かれる。東鎌尾根側の道に進み、小沢を渡ってハイマツ帯の道をジグザグ下って行く。右手からの道と合わさり、色とりどりのお花畑を九十九折れに下ると天狗原分岐に出る。



途中、雪渓を横切る箇所があり、先行グループが雪渓の末端を恐る恐る渡っている。良く見ると雪渓の下に夏道が出ており、我輩が夏道に降りて通過すると皆さん後に続いて通過した。天狗原分岐から沢沿いに下り、傾斜が緩むと大きく右に回り込み大曲を抜ける。このころから小雨が降り出し、レインウエアの上衣を着て進む。さらに進むと雨脚が強くなり、木陰の下でレインウエアのズボンを書く。槍沢沿いに灌木帯の中を下り、平坦な道を進むようになると槍沢キャンプ場に着く。ここから樹林に入り赤沢のガレ場を渡り、ダケカンバの林を抜けるとシラビソの樹林帯を歩くようになる。しばらく樹林帯を

進むと、やがて槍沢ロッジへと下り着く。3時間30分の行程を2時間45分で下り切り、疲れた足を休めて大休止する。冷たい飲料や水を飲み、トイレを済ませたら槍沢ロッジを後にし徳沢へ向かう。二ノ俣の吊り橋を渡り丸太の栈道を抜け、崩落地を高巻き小沢を渡ると一ノ俣出合いに出る。一ノ俣出合いから横尾までは約2.6Kmだ。沢の淵沿いに歩く道はとても気持ちよく、疲れた体が癒される。

何回か高巻道と淵歩きを繰り返し、丸太の栈道を渡ると広い平坦な道になり登山者でにぎわう横尾に着く。ベンチでは大勢の登山者が休んでおり、我々も空いているベンチに腰をおろしランチタイムとする。



お湯を沸かしワンタンや味噌汁と、残ったパンを片付けることにする。昼食が済んだらトイレに寄り、徳沢に向かって出発する。横尾から上高地までは約10.3 Km、3時間10分の行程。広い登山道は緩やかなアップダウンを繰り返し、梓川の畔を緩やかに下って行く。徳沢、明神と進み、小梨平キャンプ場を過ぎると河童橋に着く。Tさんが「河童橋は初めてなので写真を撮りたい」と言うので、穂高をバックに記念写真を撮る。上高地バスターミナルに着いたらひと休みして、かき

氷を食べたりお土産を買ったりしてからタクシーに乗り沢渡へ向かう。沢渡の「グレンパークさわんど」前でタクシーを降り、店に並んだスイカやトマト、インゲンなどが安いので購入する。1切れ100円のスイカは冷たくて甘く、乾いた喉をほど良く潤してくれた。道路を渡って駐車場に行き、靴を履き替え荷物を車に載せたら温泉に向かう。

いつもの「ドライブインしもまき」に行き、温泉で汗を流してからザル蕎麦とかき揚げをいただき帰路につく。松本ICまでは少し渋滞したが、高速道は順調に走り無事岩舟支所に帰着した。

